

道徳の時間で活用する
～感謝～

下松市立東陽小学校 山本 珠美

1 本場面におけるポイント

- 主題追求型の道徳資料の選定
 - ・ 人物の生き方や資料を手がかりにして自分を重ねられる資料
 - ・ 共感的に受け止めたり批判的に受け止めたりして、人物の生き方から学べる資料
- 主題追求型の発問（テーマ発問）
 - ・ 導入から終末まで一貫して自己の生き方を考える主題追求型の授業作り
- 主題追求型の板書（構造的な板書）
 - ・ 主題について視覚的に分かりやすく整理した板書
 - ・ 主題について自分を見つめ直したり友達の見解と比べたりすることができる板書

2 授業の実際

1 主題名 支えてくれるその思いに感謝し、こたえよう

2 ねらい

野口英世が世界的な医学者となっても、さらに研究に打ち込む心情について考えることを通して、支えてくれる人へ感謝の気持ちを示すとはどういうことなのか話し合い、実践していこうとする心情を育てる。

3 展開

(1) 導入 主題追求への問題意識をもつ。

教師：「支えてくれる人にどのような感謝の気持ちを示していますか？」
 児童：何かしてもらったら「ありがとう」を言う。
 教師：「感謝の気持ちを示すには言葉だけなのでしょうか？」
 児童：「ありがとう」の言葉だけではないのかも…。
 教師：「支えてくれる人に感謝の気持ちを示すとはどういうことだろう。」

□ 指導上の留意点・支援

主題についての発問を行った後、その主題についてさらに深く考えてみたくなるような発問をした。そうすることで、主題が児童自身にとっての問題となり、主題に対して問題意識をもたせながら資料を読み進めることができた。

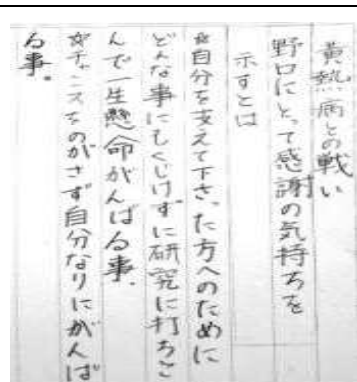
また、事前に自作資料「野口英世の一生」(右図)について読ませ、野口は何をした人なのか、野口を支えた人はどんなことをしたのか把握させることで、野口が世界的に有名な偉業を成し遂げた後も、研究に打ち込む理由を考えやすくした。



(2) 展開 資料 (P 92~P 95) の人物の生き方から主題に迫る。

教師：「野口にとって『感謝の気持ちを示す』とはどういうことでしょうか？」【テーマ発問】

- A 児：黄熱病の研究を進め病気をなくすこと。
- B 児：人々の期待に応えるような成績を収めること。
- C 児：自分を支えてくれた方のためにくじけずに研究に打ち込んで一生懸命に頑張ること。
- D 児：チャンスを逃さず自分なりに頑張ること。
- E 児：言葉ではなく、行動で示すこと。
- F 児：誰かのために研究をすること。



児童のノート

□ 指導上の留意点・支援 (テーマ発問の意義)

自己の生き方を考えさせる道徳の時間では、物語の筋を追うのではなく、主題について深く考えさせることが大切である。そのためには、発問を吟味し精選する必要がある。また、児童が発表したことを羅列的に板書するのではなく、構造的に板書することで、自分の考えを見つめ直したり、他の考えを取り入れたりして、より深く主題に迫ることができた。

(3) 終末 主題についての自己の生き方を問う。

教師：「支えてくれる人に感謝の気持ちを示すとはどういうことか、野口から学んだことを書きましょう。」【テーマ発問】

- A 児：助けてもらっているので、逆に自分がする。行動で表す。
- B 児：相手から望まれていること、期待されていることを実現させる。
- C 児：感謝の気持ちを行動に移して伝えたい。実行することの大切さが分かった。
- D 児：何事もあきらめず挑戦するというを生かしていきたい。

□ 指導上の留意点・支援

この1時間で新たに生まれた考えや気持ち、そして自分自身の生活に生かせることを整理するために、資料と実生活を関連付けるテーマ発問を行った。野口から学んだ価値を自分の生活にどのように生かせるのかしっかりと考えることができた。



板書

3 実践を振り返って

資料の人物の生き方から自分の生き方を追求する道徳授業では、一貫した主題追求型の授業を行い、1時間で何を考えていくのか児童が問題意識をもつことが大切である。道徳の時間のねらいを明確にし、発達段階や資料内容を吟味し、テーマ発問や構造的な板書を取り入れる授業、主題に向かって児童が心を動かしていく展開を考えなければならない。終末では、資料に埋没することなく、また資料から全くかけ離れることもなく、人物の生き方を通して今までの自分自身を振り返るとともに、これからの自分の生き方を考えさせる発問をしていくことが大切である。